

式 辞

校庭に咲きほころぶ桜、吹き抜けるさわやかな風、春の息吹を感じる季節となりました。ご承知のとおり、全国的な新型コロナウイルス感染拡大の影響で、現在、学校の教育活動においても様々な制約や制限が課せられています。そのような中、PTA会長の藤井寿里（ふじい じゅり）様はじめ本部役員の皆様、そして保護者の皆様のご臨席を賜り、令和四年度第七十一回ひたちなか市立勝田第二中学校の入学式がここに挙行できますことをこころより感謝いたします。

二百十二名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本校では今日のよき日を生徒、教職員一同、心から楽しみにしておりました。

今、この壇上から皆さんの返事やその姿を観ていて、「今日から中学生として頑張ろう」という意気込みを感じました。そして、小学校でしっかりと頑張ってきたことがよく分かりました。きっと素晴らしい中学生になってくれると期待しています。

中学校生活のスタートにあたり、意識して生活して欲しいことがあります。

一点目は、「自分の思い、考えをもつ」ことです。「自分は中学校で何をしたのか、どうなりたいのか」という思いをもち、自分らしさを大切にしてください。思いにはエネルギーがあり、その思いが目標達成の原動力になります。

二点目は、「自分も、人も大切にすること」です。自分の命、存在を大切にす

るとともに、相手を思いやり、受け入れ、尊重することも大切にしてください。自分と同じくらい、人もかけがえのない存在なのです。

三点目は、「人とつながる」ということです。自分の周りの仲間や、時には大人と学び合い、支え合い、助け合ってください。人は、決して一人では生きていけないものです。

四点目は、「挑戦する」ということです。失敗を恐れずチャレンジし、最善を尽くしてください。たとえ失敗してもそこから学んでください。大切なことは、失敗しないことではなく、挑戦することです。学校生活の中では、頑張ろうとしても上手くいかないこともあります。そうした時、周りの仲間や大人に相談したり、アドバイスをもらったりしてください。きっと、皆さんの力、支えになってくれる仲間や大人は近くにいるはずです。特に、担任の先生はじめ、先生方が皆さんを応援してくれます。

これまで学校では、友達と勉強したり、活動したり、会話を楽しんだり、楽しいことが当たり前のようにありました。しかし、今回の新型コロナウイルスの影響で、それが当たり前でなくなってきました。だからこそ、今、私たちができる感染予防を一人一人が心がけ、一日一日を大切にしていきましょう。

皆さんは中学校に入学し、児童から生徒へ変わります。さらに、中学校三年間で、義務教育が修了します。「義務教育が修了する」ということは、中学校を卒業したら、

大人として行動しなさい。という意味だと私は考えています。つまり、中学校三年間は大人になるための準備期間であると思います。大人になるとは、自分で考え、自分で判断し、責任ある行動をとることです。中学校を卒業した時には、自立した大人になってほしいと思います。皆さんが活躍するこれからの未来は、これまで予想もつかなかったことが起こるかもしれません。また、自分の思うとおりに物事が進まない可能性も大いにあります。自立した大人になるために、この中学校三年間で自ら進んで様々な体験をし、成功という体験と失敗という体験を繰り返してください。そして、失敗してもあきらめずに努力し続けてください。失敗から学ぶということは、長い人生を豊かに生きていく上でとても大切なことです。失敗を恥じたり、恐れたりする必要はありません。

そして、「あいさつができる学校」「時間が守れる学校」「きれいな学校」、さらに「人の体や心を傷つける行為を絶対に許さない、いじめのない学校」をみんなで作っていきましょう。

保護者の皆様、お子様の入学を心よりお慶び申し上げます。本日から大切なお子様を本校でお預かりし、全教職員が一丸となり、それぞれのお子様の持てる力や良さを伸ばし、発揮させることができるよう取り組んでまいります。中学校三年間は、心も体も大きく成長します。その一方、様々な悩みを抱える時期でもあります。どうか、いつも近くでお子様を見守り、支えていただければと思います。

教育は、学校と家庭、地域がそれぞれの役割を果たしながら互いに協力して進めることが何より大切なことと考えております。どうか本校の教育活動に、温かいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。お子様のことでご心配なことがありましたら、遠慮なくご相談ください。

創立七十一年目を迎え、令和という新しい時代を生きる二百十二名の新入生の皆さんの健やかな成長を願い、式辞といたします。

令和四年四月八日

ひたちなか市立勝田第二中学校長

高木 克己